



(左から岩田さん、園田選手、小川副会長)

— 小川かつみが聴く! —

# 夢はオリンピック! あきらめずに努力し続ける。

～夢を持つこと、その夢を支えること～

学校法人摺河学園ハーベスト  
医療福祉専門学校

**岩田秀治**さん

拓殖大学レスリング部

**園田平**選手

公益社団法人  
日本理学療法士協会 副会長

**小川克巳**



4月、新たにスタートを切る季節の企画として、2020年の東京オリンピック出場を目指して奮闘するレスリング選手の園田平選手と、園田選手がけがをされたときに理学療法士として関わっていた岩田秀治さんからお話を伺いました。

# けがの治療をともに乗り越え、 今に続く絆へ

**小川** 本日は、園田選手は全日本合宿を終えた足で鼎談に来ていただいたとのことでありありがとうございます。けがを乗り越えて、オリンピックを目指してがんばっている園田選手のお話を通じて、会員の皆さんにもエールとなるようなお話にしたいと思っています。

園田選手は高校時代に全国高校選抜大会、インターハイ、全国高校生グレコローマン選手権大会、国体に優勝と、4冠を獲得してスーパージョー高校生といわれたそうですね。レスリングという競

技を始めたきっかけはなんだったのでしょうか。

**園田** 私の父がレスリング競技選手で、その父に憧れて兄二人と一緒にレスリングを始めました。家にメダルや賞状がたくさん置いてあって、自分も欲しいと思ったのが大きな動機です。一番上の兄は交通事故で競技を続けられなくなってしまったのですが、二番目の兄とは同じ拓殖大学レスリング部に所属しています。

**小川** レスリング一家の中で育たれたのですね。お父様は園田選手が自分と同じ夢を目指してくれて、しっかりと実力のある選手になったことを喜んでいらっしやるでしょう。ただ、高校時代にけがをされてしまったと聞いています。そのけがをきっかけに岩田さんと出会ったそうですが、それはいつごろのことですか。

**園田** 高校2年生のとき、3月の選抜大会が終わった直後に膝にばい菌が入って入院したときに会いました。直接理学療法を提供していただいたのは、高校3年生の10月に右膝半月板の手術をしたときです。

第一印象では怖そうな方だと思ったのですが、話してみるととても優しく、体幹トレーニングの重要性や半月板損傷を繰り返さないために注意したほうがよいことなどを教えていただきました。

**小川** ただ漫然とリハビリテーションをするのではなく、「なぜ」ということを理解して練習ができることはとても大切です。患者さんのモチベーションに影響しますし、効果も違ってきます。

**岩田** これまでに担当してきたプロの選手達も同様ですが、特に園田選手は高校生から数々の全国大会で優勝を重ね、リオデジャネイロオリンピック、東京オリンピックのターゲット選手であり、レスリング関係者から競技復帰への期待感をひしひしと感じ、メディアカルリハビリテーションを提供するだけでは済まされないという意識がありました。

**園田** 岩田さんには、当時からずっと手厚いサポートをしていただけてきて、本当にありがたかったです。ただ治ればよいという対応ではなく、けがの予防まで含めて説明してくれて、それまでも理学療法を受けたことはあったのですが、岩田さんほど丁寧に対応してくれる方はいませんでした。

**小川** これほど評価していただけているのは理学療法士冥利に尽きますね。岩田さんは園田選手に対してどのよう

な印象を持たれましたか。

**岩田** 初めて会ったとき、私は総合病院のスポーツ整形外科に勤務していました。園田選手は高校生ながらとても体格がよくて、いかつい印象を受けたのですが、リハビリテーション室にいる高齢の患者さんに声をかけるなど、とても優しい青年でした。臨床から離れているので今は私が理学療法を提供することはありませんが、大きな大会の度に「見に来てください」と連絡をくれます。臨床の現場を離れた今でも関係がつながっていることをうれしく思っています。

**小川** 患者さんと理学療法士という関係を越えたお二人の絆がよく伝わってきました。同じ理学療法士として、そのような信頼関係を築いていらいっしやることをうらやましく思います。



## 治療して終わりではなく、 未来を見据えたサポートを

**小川** 先ほど園田選手のリハビリテーションを行う際に、身体づくりも含めた説明を丁寧にしたと伺いました。理学療法士として、予防の視点からの助言は大変重要だと思います。そのような助言を始めたきっかけが何かあったのでしょうか。

**岩田** 私自身、過去にバレーボールの実業団チームに所属していて、靭帯断裂から再手術を繰り返し、そのために競技を引退せざるをえなかったという辛い経験をしました。理学療法士を目指したのはその時の治療がきっかけです。そのため、リハビリテーションを提供するだけでなく、目的を理解してトレーニングすることや、競技復帰を



見据えた身体の使い方を理解してもらうことが重要だと考えるようになりました。

**小川** ご自身の経験から重要性を認識されたのですね。助言を受けて選手生命が延びた方も多くいらっしゃるでしょう。大変意義のある取り組みです。具体的にはどのようなことを説明されたのでしょうか。

**岩田** 当時、体幹トレーニングという言葉はかなり一般的に浸透していましたが、なぜ必要かと問いかけるとしつかり答えられない選手が多かったです。園田選手には、体幹トレーニングがレスリングの動作にどのように直結するのかを十分に説明し、メディカルリハビリテーションからアスレティックリハビリテーションへ移行するなかで、体幹トレーニングと動作練習がリンクする意識を持ってもらいました。再受傷しないためにも重要です。

**園田** 半月板損傷について、関節模型や動作を見せて、どのような動きが前十字靭帯や半月板の損傷につながるのか説明していただきましたね。前十字靭帯や半月板の役割や、膝関節に近い

関節の影響を受けるということも知りませんでした。股関節や足関節の動きによつては、膝関節に強い負担がかかるのだという説明も大変ためになりました。

**小川** 理学療法士には常識でも、患者さんが知らないことが多々あります。専門家として相手の目線で何をどう伝える必要があるかを考える視点は大事ですね。そのほかにも復帰後に向けて何かサポートされていたことはありましたか。

**岩田** 医師の指示のもと、自らが選択できるスポーツ整形外科食を提供し、上下肢・体幹別に高精度体成分分析装置を用いて週に1回体組成を理学療法

## 自分を信じて、 努力し続けてほしい

**小川** 岩田さんは現在、教員として勤務しながらデフバレーボール日本代表チームトレーナーに就任されているそうですね。スポーツの振興に貢献したいという熱意を感じます。私の教員時代にもスポーツに関わりたいたいという志望動機で入学してきた学生が多くいました。しかし、卒業後の受け皿がとてもなく、希望通りの進路に進めない場合が多いようです。そこで夢をあきら

士が評価、病棟サイドでは看護師が毎食の残食量をデジタルカメラで撮影し、得られた画像から管理栄養士が栄養価を算出するなど、多職種が連携して選手の筋肉量維持に取り組みました。

**小川** 医療・介護の分野だけでなく、スポーツ領域でも多職種連携が進んでいますね。それぞれの専門性を明確にし、理学療法士ならではのサポートをされていたお話をうかがえてうれしく思います。現場で活躍されている皆さんの後押しができるよう、本会としても関係職種の皆さんはもちろん、国民の皆さんにも「理学療法士の専門性」を理解していただく取り組みをいっそう進めていきます。

らめてしまうケースが多いのですが、これは仕方ないことなのでしょう。

**岩田** 確かにいきなり1年目の理学療法士がスポーツ領域で働くことは難しいと思います。私自身、最初の勤務先はスポーツとは関係なかったので、土日の休みを使ってトレーナーとして出向いていました。自分でフィールドを広げる努力が必要です。

**小川** どのようなきっかけを作ってス



ポーツと関わればよいのでしょうか。近隣の体育館や都道府県の各種スポーツ団体にコンタクトを取るといった方法がまず思い浮かびますが、どうでしょうか。

**岩田** そうですね。ほかに、都道府県理学療法士会にスポーツ支援部などの組織があります。そこで

テーピングなどの研修会に参加するなどして技術を身に付けたいと、近くの中学校や高校にテーピングをさせてほしいとお願いしていくこともできます。

**小川** まずは行動してみることですね。本会も組織的にスポーツを支援するために動いているところです。特に障がい者スポーツは選手不足が懸念されていますが、障害の特性を知る理学療法士が関与することで、何かしらの貢献ができるのではないかと考えています。

**岩田** 理学療法士が関わることで、障がいを持つ選手は安心して競技に取り組むことができるようになります。また、障がいをお持ちの患者さんでスポーツに関心のある方が身近にいたら障がい者スポーツに参加できるよう、そのきっかけを理学療法士として提供していただけたらうれしいです。

**小川** 園田選手が参加されている日本代表チームの合宿では、スタッフのサポート体制もかなり充実しているのではないですか。

**園田** 大学に入学して日本代表チームの合宿に参加させてもらったときから、JISS(国立スポーツ科学センター)でトレーナーの方にいろいろと教えていただいています。おかげで、トレーニングの負荷量やレスリングの練習での力の使い方が数段上がりました。

**小川** 日本代表チームという環境に入

ることによって、実力を大きく伸ばされたのですね。若い方の成長はめざましいものがありますから、今後ますます強くなっていけるでしょう。園田さんは教育に携わるようになって若い方と接する機会が増えたと思いますが、世代としてどのようにとらえていますか。

**岩田** 素直で優しい学生が多い一方で、あきらめが早いことが気になってます。努力を続ければ必ず成長することができますということをもっと信じてほしいと思っています。そのため、自分の臨床での経験などを話したり、小さな成功体験を積み重ねることで、勉強することが楽しいと感じてもらいたいと思っています。私もまだ教員3年目なので十分ではないと思いますが、学生のモチベーションが上がるような教育をしたいと思っています。

**小川** 学生のうちから自分何をしたのかを考えておくこと、最初の進路が希望通りではなくてもまずはそこががんばりながら夢に向かって努力することなどが、この対談を通じて若い方に伝わることを願います。

最後に、園田選手のがんばる姿に励まされる方も多いと思います。園田選手のこれからの目標を教えてくださいませんか。

**園田** 残念ながらリオデジャネイロオリンピックの出場権は逃してしまっ

ので、5月に開催される全日本選手権での優勝が今の目標です。そのために体力強化と筋力強化に励んでいます。長期的な目標はもちろん2020年の東京オリンピック出場です。

**岩田** 園田選手がジュニア時代からお世話になっている日野高校の監督は、ボイコットで不参加になったモスクワオリンピックレスリング日本代表選手でした。監督が立てなかつた舞台に今度は自分が、という思いがあると園田選手から聞いています。

**小川** とても素晴らしいお話ですね。ぜひその夢をかなえてください。理学療法士も、けがや病気の治療だけでなく傷害予防やトレーニングなど、スポーツ選手をより支えられる存在になるようにがんばります。今日は忙しいなか、ありがとうございます。

